

医療安全ニュース 11期/9号

思い込みエラーは防げない？エラーに気付かせる工夫とは

照合して再確認！

指差し呼称！



周囲へ これであってる？

チェックバック(復唱)！



フルネーム確認し患者さんにも名乗ってもらう！

図：いらすとや HP より

参考・引用

・WIRED.HP.<https://wired.jp/2004/03/16/ブラーボ効果はなぜ起こるのか>.2021/3/23.最終確認。
・ウィキペディア HP.<https://ja.wikipedia.org/wiki/偽薬>.2021/3/23.最終確認。

● 思い込みエラーは防げない？

- 1.間違った作業(エラー)をしている状態で、作業している人が**正しいと思い込んでいる**場合、誰かに指摘されるか自身で気付くまでエラーに気付くことはできません。もちろん、事故を起こそうなどとは一切思っておらず、エラーに気付いていないのでエラーが訂正されず、思いもよらない重大事故に繋がる可能性が否定できません。
- 2.これまでに「イェローレーター」で報告しているとおり、思い込みエラーが要因のひとつだ、とされている事例は毎月のように発生しています。
- 3.ここで、思い込みし易いとされる人の特徴として、「たぶん～」とか「いつもはこうだった～」などの思考で作業をしてしまう、「やりやすいから～」「早く終わるので～」などを理由に行動してしまう、個性として「自分は慣れているので間違えない」「直感で判断することが多い」「自己中心的で他人の話を聞かない」「強いポジティブ or ネガティブ思考」などがあてはまる、という報告もあります。

● 過去に報告された思い込みエラー事例

- 1.フルネームで呼んで返事をしたのでそのまま呼び込んだら別患者だった。患者は次は**自分の番だと思い込んでいた**。職員は返事をしたので**本人と思い込み**再確認はしなかった。
- 2.内服の変更の申し送りを受けたが変更前で服薬させた。目立つように変更箇所にマーカーもされていたが、**思い込んでいたので確認せずスルー**してしまった。
- 3.外用薬を取り違えた。掻痒感があり塗布したが、取った薬が**目的の薬と思い込んで**おり取り違えた外用薬を塗布していた。

● エラーに気付かせる工夫とは

- 1.思い込みエラーは医療安全ニュース 11 期/8 号ヒューマンエラーの 3 タイプで紹介した「ミステイク」に分類されます。防ぐ(思い込みに気付かせエラーを修正する)工夫として、**念の為にでも「これであってる？」と他者に聞く、照合(復唱も有用)して再確認する、指差し呼称する、などを推奨**しました。
- 2.その他にも、**継続した教育やシミュレーション訓練、物理的に出来なくする工夫**、例えば**接続チューブの形状を変える、などが有用**とされています。

● 思い込みエラーを意識する

- 1.ブラーボ効果(できると思い込むとできる)やノーシーボ効果(できないと思い込むとできない)など原理仕組みははっきりとしていませんが、思い込みで人は不思議な反応を示すことも知られています。不確実となる可能性がある人の作業を少しでも確実な作業に近づける為、**思い込みエラーを意識し作業を工夫する事が推奨**されるところです。

職員の皆様へ：お読みになりましたら下記へサインをお願いします。院内ラウンド時に確認させていただきます。